

ヤマダゴロベエ

山田五郎兵衛 諱は永世。大聖寺の刀工家正から八代に當り、甲冑及び象眼鏡を作つた。文化元年生、明治四年十二月歿。その子五郎兵衛宗光は天保二年生、金澤の兒島宗英に製冑の技を學び、明治四十一年歿。その子宗美は鎗鐵の名手で明治四十年、大正五年歿。

ヤマダサクベエ

山田作兵衛 初め御歩であつたが、新知百石を得て組外に列し、寛政七年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヤマダジ

山田寺 鹿島郡長川に在つて、眞言宗に屬する。寶永元年眞正の再興。能登名跡志に『山田寺は眞言宗也。本尊春日の作也。即觀世音也。當國廿番の札所也。』とある。

ヤマダジスケ

山田治助 前田利家に仕へて八十俵二十人扶持を受け、慶安十四年歿。子孫藩に世襲する。

ヤマダジヨウ

山田城 江沼郡山田のうち東山田の附近に在り、地方人呼んで玄蕃邸といふた。

ヤマダジヨウ

山田城 河北郡上山田に在つた。越登賀三州志故墟考に、村より三町西に堡跡があつて、廣瀬伊賀之に居たといふ。天正四年八月一向一揆より下間刑部法眼への訴狀連名中に、廣瀬伊賀守貞治(清力)とあるものはであらうと記する。

ヤマダジヨケン

山田如見 一に如憲に作る。法號乘阿。一華堂と號した。如見は源氏物語を相傳した人で、萬治三年の脇田如鐵自記に、『如見居士は薩州住人。爲遊客。歌道一篇に志深く、住宅を不承、國々流浪して、所所に於て人々の親しみ不淺、こゝろばせ風流

にして無欲の人。是を感ずるのみ。一とせ芳春院殿自江戸加州へ被爲入候折節、如見を御誘引有て、加越能連歌師共此の流を汲む輩數多あり。幸と切紙傳受の人は予一人と覺え候。其後利常卿室號天徳院殿御扶持人となり、宮女岩崎といふ者源氏相傳、弟子に被成、數年金澤に在留す。』とある。如見の子仁右衛門は前田光高に仕へて百五十石を受け、その子孫相襲いだ。

ヤマダシロエモン

山田四郎右衛門 三輩記の著者。藩の割場附宰領足輕で、前田利常の時以來三千四俵を受け、元祿中八十二歳(一作八十六)で歿した。四郎右衛門に男子なく、山田久八を婿養子とした。

ヤマダセンテ

山田先出 能美郡山上郷に屬する部落。郷村名義抄に、山田村から出て新開したものにて村あり、その前のものを山田先出、後のものを山田新といふたが、正保寛文・貞享の高辻帳には山田先出村の一名となつてゐる。山田先出は與助が創めたので、中比與助島といふたこともある。

ヤマダタンキク

山田淡菊 石川郡本吉の人。通稱明靨屋嘉兵衛。九如山人・淡菊又は松風館と號し、酒造を業とし、町年寄となつて令名があつた。毎年京都に上つて風雅の交遊をなし、書を村瀬榜亭に質し、畫を浦上春琴に習ひ、共に造詣が深かつた。後安政五年の大火に類焼し、幾ばくもなく齡七旬で歿。嗣子嘉平亦詩書を能くし淡川と號した。

ヤマダデハ

山田出羽 慶長五年八月大聖寺城征伐の際、前田利長の中軍に在つて功を立てた。祿六千石。末孫はない。

ヤマダトウベエ

山田藤兵衛 前田利家に

召出されて城内の疊刺を勤め、祿三十石を賜はつた。その子藤兵衛家を繼ぎ、慶安二年歿。その子藤兵衛は延寶八年五月歿した。

ヤマダナガノブ

山田長宣 通稱東平、字は子昭。新川又は太刀山人と號した。越中の入。初め醫を學んだが、後に之を廢し、詩を以て一家をなし、又書を能くした。明治二年金澤藩に聘せられて明倫堂助教となり、廢藩の後石川郡美川に移り、十一年東京に轉じた。三十八年十一月歿する時歳七十九。太刀山房絶句抄がある。

ヤマタニガハ

山谷川 鳳至郡宇加川領山から發し、同領で海に注ぐ。流程二軒。文應二年の諸橋六郷目録に、本郷と古君の境は鶴ヶ川とあるものはである。

ヤマダノブミツ

山田信滿 通稱衆之助。良助。寛政十二年祖父利則の遺知七十石を繼ぎ、組外に列し、文政三年外作事奉行となり、六年町同心に轉じ、天保七年五十石を増祿した。

ヤマダノリヨシ

山田禮義 通稱作右衛門。初め御算用者より出で、文政五年組外に列し、新知百石を受け、天保七年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヤマダハンザエモン

山田半左衛門 一名庄太夫。前田利常に仕へて祿百石を受け、大坂再役に二ノ丸堀外で敵首一を獲た。子孫世世藩に仕へる。

ヤマダハンナイ

山田半内 治助の子。祿加増共に四百五十石を領し、寛永六年京都三十三間堂に於いて矢數を試みたるを以てその名が著れた。明曆三年歿。

ヤマダヒテツグ

山田秀次 鳳至郡山田郷

では山田秀次といふ者の居たことを曠々する。能登誌に『山田郷は昔長家の類葉山田式部大夫秀次といふ人の領地にて、城跡は印内村にあり、位牌等は西安寺村最安寺といふ寺にあり。』とある如きは是であるが、式部大輔といふは疑はしい。又洞雲寺に秀次の寄進狀があるが、文明元辛未年二月日とあつて、干支を誤つて居る。いづれにしても秀次なるものゝ存在は確實でない。

ヤマダフミヨシ

山田文祥 本姓高瀬氏、出で、山田氏を襲いだ。初め與三助又は章藏と稱し、後文祥と改める。幼にして讀書を好み、業を金子梶及び井口濟に受け、遂に江戸に往きて芳野金陵に學び、昌平齋に入りて日夜淬勵し、歸國の後齊勇館教師となり、中學東校幹事に任じ、次いで金澤及び輪島師範學校教員となり、明治十四年二月歿した。年三十七。

ヤマダボウス

山田坊主 ↓コウキョウジ光教寺。

ヤマダマサヒサ

山田正久 大聖寺在任の浪人。五ノ坪流の槍術を教授した。正久又畫を描き、菅生石部神社に富士卷狩の額がある。元祿・寶永の頃の人。

ヤマダマタタロウ

山田又太郎 前田利常に仕へて二百石を領し、天和三年歿した。その孫權左衛門に至つて亂心出奔したが、後歸國して享保七年より縮所に收容せられ、寶曆十年七月廿七日六十一歳を以て歿し、家斷絶した。

ヤマダマチジカタ

山田町地方 江沼郡西、庄に屬し、或は山田町領ともいふた。明治中大聖寺町に併合せられたが、別に山田町があ